

国民の世論と運動で「社会保障・税一体改革」をやめさせ、社会保障拡充への転換を！

ほっかいどうの社会保障

2013年4月23日 北海道社会保障推進協議会 Tel:011-758-2648 FAX:758-4666

いよいよ今週土曜日

4月27日 14時～ 佐藤水産文化ホール

— ナショナル・ミニマムを考える学習会 —



金澤先生の記念講演 「人間らしい生活を求めて」

いよいよ今週の土曜日 14時から16時まで、佐藤水産文化ホール（JR札幌駅南口向かい）で、ナショナル・ミニマムを考える学習会を行います。政府は今でも低い生活保護基準をさらに引き下げようとしています。労働者の賃金も下がる一方です。高齢者も多くが低年金です。しかし、マスコミなどの影響もあり、それぞれが対立する場面もあります。そもそも、政府が保障する「ナショナル・ミニマム」とは何か、人間らしい生活とは何か、佛教大学社会学部の金澤誠一教授がお話します。たくさんの方の参加をお待ちしています（資料代500円）。

まともな暮らしを保障しろ！ 分断を乗り越え団結したとりくみを

道労連 「誰もが不安なく働き続けられる社会を」

パートで働く仲間が交流

4月20日、2013パートで働く仲間の交流会が行われ、92名が参加しました。はじめに、全労連非正規局長の江花新さんが「時給を高くする方法 誰もが不安なく働き続けられる社会に」と題する講演を行い、後半は、参加者がパネルに「現在の賃金（時給換算）」などを書き込み、労働実態や労働組合の役割などを交流し合いました。交流では、最低賃金換算で500円を下回る人や730円などが示され時給の大幅値上げを求めました。労働組合に入り団交ができ要求が実現した経験も話されました。



福祉保育労 私の一言 「暮らしていけない」 国会議員へ改善求める

福祉保育労では、新しく選出された衆議院議員を中心に、福祉の現場実態・福祉労働者の生活実態を伝え、「福祉は権利」署名の紹介議員と実行ある福祉人材確保対策に向け、「私の一言」運動にとりくみました。

北海道分の「私の一言」（低賃金を中心に）の一部を紹介します。

「5年でやっと臨時職員から正職員になりましたが、手取りは月13万円にならないこともあります。実家に住んでいるのでなんとかありますが、このまま続けてもいいのか不安です（女性・保育）」

「一人暮らしができません（女性・25歳・保育）」。

「今後結婚をしても、保育士として長く働きたいと思っています。結婚後、子どもができ生活をする事を考えると『生活費』に不安があります。『将来を考え貯蓄を』と考えますが、思うようにできず、先が見えないのが現実です（男性・32歳・保育）」など。

新婦人 二つの暮らし実態アンケート 深刻な実態、切実な声寄せられる

新婦人の会では、「65歳以上の女性」と「はたらく女性」の暮らしの実態を明らかにし、貧困と格差是正の力とするため、アンケートをおこないました。北海道だけでも、700人から寄せられています（集約分）。「くらしていけない」など深刻な実態や切実な要望が綴られています。一部を紹介します。

【はたらく女性】77歳「年金が減少し保険料が上がるのでは、高齢者いじめです。少しばかりのパート（月9万円）で補っていますが、働けなくなったら思うと不安です」

【65歳以上女性】67歳：年金月7.9万円：一人暮らし「食費はできるだけ手作りに徹し、アパートの回りを開墾して、野菜等作っています」「今までのガンバッテ生きてきました。まじめに年寄りを大切にす国になってほしいです。普通に生きていけるだけでよいのです」

24日は 消費税廃止各界連と合同宣伝日です。

4月24日（水） 12時15分～45分 札幌パルコ前

5月24日（金） 12時30分～13時30分 大通西3丁目周辺

5月は 100人以上で、宣伝署名行動します

